

2023 年度 読売・郡司ひさる奨学生卒業報告

【22 期生】

充実した4年間 卒業制作「俳句と小説の融合」に没頭

関東の私立大学を卒業し、IT 企業に就職する女性

3月25日、無事に大学を卒業できました。

我々の世代はコロナ禍により思うような大学生活を送れなかった、と言われることも多くなるのでしょうか。しかし、私の大学生活前半は不思議と充実したものでした。全面オンライン授業になった1年次はひたすら創作活動に勤しみ、普段はなかなか書かない恋愛小説に挑戦していました。その作品は30万字という我ながら驚異的な長編に至り、ひとつの物語として綺麗に完結させることができました。また、学科内の創作コンペティションに応募し始めたのもこの年です。初めての応募ながら佳作に選ばれ、嬉しかったと同時にもっと上を目指そうと気持ちを新たにすることを覚えています。

2年次は少しずつ対面授業が始まりましたが、それでもほとんどの授業はオンラインのままです。そんな中でも数少ない対面授業を使って交友関係を広げたり、チャレンジプロジェクトに参加したりし始めました。チャレンジプロジェクトでは外国ルーツの子供たちへの教育支援を行いました。当時はまだオンラインでの活動でしたが、それでも実り多き活動でした。

ようやく対面授業が全面的に再開された3年次は、やや不足していた単位を取りつつ就活にも力を入れました。4月の終わりから合同説明会への参加をはじめ、気になった会社には積極的に1day インターン等に参加し、業界研究を進めていきました。秋になると早期選考にも積極的に参加し、11月時点で内定を獲得することができました。しかし不足していた単位を取るため1限に授業を週4で入れ、更にプロジェクトに就活にと奔走していて、かなり疲れたのも事実です。後輩たちには単位は計画的に取るように、あまりスケジュールを詰めすぎないように、と伝えたいです。

そして4年次は卒業制作にひたすら没頭していました。就活の不安がない状態で卒業制作に臨めたことは本当に良かったと思います。春学期はなかなかギアがかからず苦戦していましたが、夏休みに本腰を入れ、最終的には無事に完成させることができました。「俳句と小説の融合」という難しいテーマを扱っていましたが、納得のいく出来にすることができました。大学生活を良い形で締めくくることができ、本当に良かったと思います。

卒業後はIT企業に就職します。シェルという、OSとアプリケーションをつな

ぐ技術を専門に扱う会社です。最初の3か月は研修ということなので、現場でしっかり仕事をこなせるように学んでいこうと思います。

教員採用試験に再挑戦へ やりがいのある仕事

四国の私立大学を卒業し、非常勤講師になる男性

3月15日に大学を卒業した。卒業と同時に文学の学位並びに中学校I種免許状（社会科）と高等学校I種免許状（地歴科）が与えられた。大学入学時の目標であった教員免許状の取得ができ、無事に4年間を終えることができた。大学入学時に立てた自分の目標を達成することができ、安心している。

大学生活4年間を振り返ってみると、様々な組織に属し、人間関係を広げることができたと感じている。特にピアリーダー活動は自分のコミュニケーション能力や臨機応変に対応する力をつけることができた活動であり、様々な先輩や後輩そして切磋琢磨し合える同期と出会うことができ、思い入れが深い活動であった。ピアリーダー活動を通して、一年生との関係を作れたおかげもあり、更に人間関係を深めることができ、後輩たちをサポートしていく中で様々な力をつけることができた。このほかにも生協学生委員会や大学祭実行委員会に所属もした。その中で後輩の指導やイベントの企画・運営など様々な力をつけることができた。4年間継続して卓球部にも所属。大会などで結果を出すことはできなかったが日々の練習を通して、技術と体力の向上に努めることができた。

寮の中でも仲のいい友人が多数できた。特に1年生の時の新型コロナウイルスの流行初期には、寮の友人と共に課題をしたり、買い物に行ったりしていた。寮の友人がいたからこそ、大学の対面所業が再開されるまでの期間を有効に活用できた。2年生になって寮が新しくなったが、その中でも良い人間関係をつくることができた。

4年生の時には教育実習や教員採用試験があった。教育実習では教員の仕事の多さと忙しさを目の当たりにすることができ、大変ではあるが、とてもやりがいのある仕事だと気づくことができた。教員採用試験は不合格となってしまったが、今年もあるので再挑戦するつもりである。

この4年間は制限があった期間が大半ではあったが、自分の能力の向上や資格取得、そして人間関係作りにおいて、友好的に活用できたと感じている。この大学生活でできた様々な人間関係や能力を生かしつつ、4月からは講師としてしっかりと仕事に取り組んでいきたい。

児童養護施設でアルバイトしながら自信回復へ

関西の私立大学(健康福祉専攻)を卒業した女性

3月14日に大学を無事に卒業しました。今後は特定のところに就職をするのではなく児童福祉施設にてアルバイトをしながら福祉現場での経験と知識を増やす予定です。それに併せて飲食店でアルバイトをして生計を立てていく予定です。

大学卒業後の進路がこうなってしまったのには理由があります。昨年10月の社会福祉実習が私自身の未熟さから思い描いていたものとは異なり、最後まで実習を終えることができず、福祉の現場で働くことに対して自信を無くしてしまっただけにありません。更に入学当初から目指していた社会福祉士の資格取得が遠ざかってしまったこともその一つとなりました。

実習中断後、卒業研究論文のテーマとして私自身の経験を扱い、大学4年間で培った専門職の視点から考察していくと同時に自分自身と向き合い、「なぜ自分はこの道を目指したのか」を考える時間にもなりました。そこで私はさまざまな知識や経験を身に付けたが故にこの道を志した当初の気持ちを忘れてしまっていることに気づくことができました。これも大学の先生方や友人たちが自信をなくした私を支え、励ましてくれたから気づくことができたのだと感じています。

いずれは福祉現場で働きたいと考えていますが、なくしてしまった自信を取り戻すにはまだまだ時間を要するためアルバイトという形で福祉に関わりたいと思います。

この4年間で振り返ると、大学生活が始まってからつらく苦しい事ばかりでしたが、読売光と愛の事業団様をはじめとするさまざまな方からご支援していただいたからこそ乗り切ることが出来たと感謝しております。今後は私自身のペースで自分のしたいことに向き合って頑張っていきたいと思っています。

アルバイト減でも奨学金のおかげで卒業研究・設計に集中

関東の私立大学を卒業し、建築会社で施工管理の仕事をする男性

私の所属する研究室では大学卒業には卒業研究と卒業設計を提出しなければならない。他の大学や研究室ではどちらかだけの場合が多いらしいが、私の研究室では両方を半年で終わらせる必要がある。ほとんどの同級生がアルバイトを早期に辞めて日中から作業をする中、私はアルバイトをして同級生たちが帰った後に大学に行き、作業をしていた。

しかし、後半に近づくにつれてアルバイトを減らさなくてはならない状況に

なった。そんな時、今までの支援の貯蓄があったことで、作業に集中することが出来た。卒業に必要な単位数を満たすことができ、無事卒業を迎えることが出来た。

インターンシップで行った企業への就職で、現場の大変さなどを体験している。入社したらより大変なことがあると思うが、大学での経験を生かして頑張ろうと思う。

国籍の壁で公務員になれず 自分で会社を設立

関東の私立大学を卒業し、林業関連の会社を設立した男性

4年間を振り返ると様々なことがありました。コロナ禍で入った大学で入学式もなくなり、授業もレポートを提出するばかりという事態で大学生活がスタートしました。緊急事態宣言による自宅待機で新しい友達との交流もなく、大変でした。2年生、3年生になるにつれてリモート授業、リモート授業と対面授業を交互にするハイブリッド授業となり、4年生になって完全対面授業になりました。毎年毎年慣れないシステムでついていくのに必死でした。

大好きなサッカーを続けるために部活にも入り、そこで仲間も出来て、助けてくれた仲間と一緒に乗り越えてきました。なんとか大学の卒業に必要な単位を取得できました。

当初は児童養護施設で働きたかったです。しかし、勉強するにつれて今まで自分が受けてきた思い出したくない過去がフラッシュバックしてしまいました。何度も続けるか、迷った結果、2年生で福祉分野の課程を降りることを決めました。就職先や働きたいことに迷った結果、公務員になることを考え、運動能力に自信があった自分は自衛隊を目指すことにしました。

しかし、国籍問題で受験資格すらありませんでした。次に消防士を目指しましたが、これも日本国籍を有していないと働けませんでした。帰化申請には1年以上もかかり、もう何もやる気がなくなりました。

そこで考えました。自分で会社を作ってしまうといいと。仲間と協力して林業関連の合同会社を設立しました。林業は若手が不足しており、私たちの運動量が生きるからやっています。この先この会社を大きくしていこうと思っています

いろいろありましたが、すべて高校生まで生活していた児童養護施設での手厚いサポートがあったからだとしみじみ思います。また、私の夢を応援してくれた事業団の奨学金もあったからだ、感謝の気持ちでいっぱいです。

【23 期生】

施設の先生や友人に支えられて復学 充実の2年間

中国地方の短期大学を卒業し、カフェのスタッフになる女性

学校や引越し、趣味やアルバイトなどで大学生活後半は本当に忙しい日々でしたが、無事に卒業式を迎えることが出来ました。

私は大学に入学してすぐに休学し、アルバイトを始めても短期間でやめてしまう無気力な生活を送っていました。その時は将来のことが何も考えられず、目標も、自分のやりたいことも全て見失っていました。しかし、休学中にも連絡をくれる施設の先生や学校の先生、友達に支えられ、残りの2年間は本当に充実した大学生活を送れました。そして、かなり悩んでいた進路ですが、1年半アルバイトとして働いてきたカフェでそのまま就職させてもらうことになりました。メインはカフェのホールスタッフとして働くつもりですが、お店のポスターや期間限定のスイーツなどのメニューのデザインも私が担当することになりました。元々はデザイナーとしての進路を考えていましたが、求人が少なく、たとえ大学でデザインを専攻していても未経験だと即戦力として雇ってもらえるところは少ないので、この進路を選びました。また、飲食店で3年間働く調剤師の試験が受けられるようになるのですが、それにも少し興味があります。今ここで決めた進路を一生貫くという気持ちよりかは、それをきっかけにどんどんいろんなことに挑戦し、本当にやりたいことを見つけていきたいという気持ちでいます。今年の目標はできるだけ多くの資格を取得することです。今の就職先とは何ら関係の無い資格でも、自分の可能性を広げるチャンスになると思うので、恐れずに挑戦し、努力し続けたいです。

大学生としての生活は終わってしまいましたが、これから社会人として、大学で学んだ知識と培った人脈を大事にこれからも成長して行けたらいいと思います。

【24 期生】

経済面の心配なく大会にも出場 とても濃い日々

東海美容専門学校を卒業し、東京で美容師になる男性

美容専門学校を無事卒業することができました。学校生活では、実技や筆記などの基本的なことを学んだり、大会に出場したり、とても濃い日々を送ることが出来ました。そして就職先も決まり、4月からは東京で美容師として働きます。

美容の道に興味を持ったのが中学生の時。その道に進むと決めたのが高校生の時でした。進学するにあたって心配だったことは経済面でした。そんな中、貴団体の奨学金制度を知り、応募することにしました。2年間、何事もなく学校に通い、勉学に集中できたのは貴団体の奨学金があったからだと感じています。社会人としてのスタートラインに立たせていただき、ありがとうございました。ま頑張ります。

未来を担う子どもたち一人一人の心に寄り添いたい

東北の短期大学を卒業し、こども園の保育士になる女性

3月19日に卒業式を迎え、2年間の短大生活が終わりました。2年間でたくさんのお話を学び、学業面だけでなく、一人暮らしやお金の管理等生活面でも多くのことを学びました。4月からは宮城県内にあるこども園で保育教諭として活躍します。2歳児の担当になりました。これまでの保育実習では辛いと感じることもありましたが、「保育士になる」という目標を達成することができ、とても嬉しく感じています。保育士資格はとりましたが、良き保育者としてはまだまだ未熟で、これから現場で様々なことを経験し、たくさん学び、子どもたちのことを一番に考えて前進していきたいです。

保育士は、これからの未来を担う大切な子ども達の命を預かり、成長に応じた援助をしていくとてもやりがいのある仕事だと考えています。働く中でまずは自分の仕事に責任感を持ってしっかり行い、子どもの変化や成長にいち早く気づき、子ども一人一人の心に寄り添った保育をしていきたいです。また自分が社会人であるという自覚を持ち、何事も責任ある行動を心がけたいです。新しい環境で新しい仲間とのスタートなので不安や緊張も多くありますが、周りの方を頼りながら自分一人で抱え込むことがないようにしたいです。そして元気な挨拶と笑顔を忘れることなく頑張っていきたいです。